かぬまフラッシュ
— KANUMA ★ FLASH —





秋を彩る園芸の祭典　市花木センターで開催
―第31回鹿沼園芸フェア―

10月31日～11月8日に、「菊花展示会」「おもと展示会」「華道連盟 花展」のほか、書道家の小杉卓氏と小沼智靖氏率いるyolucaのパフォーマンスや鹿沼商工会議所創立80周年記念事業「ガーデニング&フラワーアレンジコンテスト」、「園芸フェアマルシェ」など、さまざまなイベントが開催されました。

「秋季さつき銘品展」「日本盆栽協会鹿沼支部展」では展示されたさつきの幹の力強さや美しさに、多くの人が魅入っていました。

国内外で活躍する津軽三味線（しゃみせん）奏者
―小山（おやま） 清雄（せいゆう）さんにかぬまふるさと大使委嘱―



9月28日、市出身の津軽三味線奏者・小山清雄さんに「かぬまふるさと大使」を委嘱しました。

小山さんは、14歳から津軽三味線を学び、現在は、津軽三味線小山流師範として、演歌歌手の藤あや子さんの専属奏者や海外での公演を行うなど、幅広く活躍されています。小山さんは、「音楽を通して鹿沼の魅力を発信しながら、故郷に少しでも恩返しをしていきたい」と抱負を語ってくれました。

開ける前から、鹿沼を感じる。
―ふるさと納税「オリジナル段ボール」誕生―



10月から、ふるさと納税返礼品梱包用のオリジナルデザイン段ボール箱の取り扱いが始まりました。このデザインを手掛けたのは、「かぬまふるさと大使」でアニメ作家の髙山美乃里さんです。

髙山さんが高校生まで過ごした鹿沼市の風景を、段ボール箱の四つの側面にパノラマ状で描いており、よく見ると千手山公園の観覧車や屋台のまち中央公園など鹿沼の名所が描かれています。

デザインから製造に至るまでの全てを、鹿沼市関係者の力を結集して生み出された「Made in 鹿沼」の段ボールが、全国各地に届きます。

災害時の安全安心を
―「災害時における支援協力に関する協定」を締結―



10月13日、ALSOK（アルソック）北関東株式会社と「災害時における支援協力に関する協定」を締結しました。

この協定により、災害時において被災地の防犯パトロール、避難場所等の警戒活動警備、被災状況等の情報の提供、給水活動支援、資機材・物資および人員の提供等の協力をいただけることになりました。

災害時における安全安心や市民生活の早期安定に寄与されることが期待されます。



鹿沼に新たな公共交通
―「ポポカ」出発式―

11月3日、市役所で、スマホひとつで呼べるバス「ポポカ」の出発式が行われました。当日は「ポポカ」の試乗会が行われ、参加者からは「乗り換えがなくなったので便利に使えそう」「今後利用してみたい」などの声がありました。

同イベント内では、仁神堂幼稚園の園児と鹿沼混声合唱団による「ぽかぽか ポポカ」の大合唱のほか、ダンスチーム等によるステージショーも行われ、会場を賑わせました。

10店のシウマイ、市役所に集合！
―第4回かぬまシウマイ博覧会―

11月7日、市役所駐車場でかぬまシウマイ博覧会が開催されました。今年は10店舗のシウマイ関連商品が並び、来場者は食べ比べを楽しんでいました。

ステージではさつきドリーマーズのマーチングバンドのほか、シウマイダンスやシウマイ紙芝居、そしてシュウマイ研究家のシュウマイ潤さんと司会を務めた栃木県立鹿沼高校の放送部とのトークショーにより、会場はシウマイムード一色に染まりました。



『Made in 鹿沼』のロゴマークをご活用ください

本市の新たなまちづくりのキーワードとして掲げた「Made in 鹿沼」。そのロゴマークが誕生しました。

この地から、輝く。
Made in 鹿沼

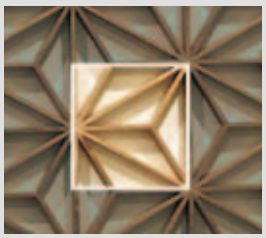
Made in 鹿沼は、いちごやにらをはじめとする農産物や鹿沼で製造された品物だけでなく、地理的・歴史的・文化的・民俗的に本市に根付き、本市を形づくるすべての要素を指す言葉です。

いずれも本市の魅力であり、「Made in 鹿沼」はこれを発信するためのキーワードです。

ロゴマークは、鹿沼組子の麻の葉模様から右半分を切り取り、鹿沼の頭文字「K」を形づくったものです。直線によって力強さを、放射形状によって「光の広がり」を表しています。

さらに、知名度の高い鹿沼土の色と、さつき由来の赤色を配しました。

「この地から、輝く。」は、鹿沼で生まれたもの、これから生まれるものが広がっていくイメージを伝えています。



▲鹿沼組子「麻の葉」模様の一部をモチーフにしました。

ロゴマークは、市公式ホームページで公開中です。鹿沼の魅力発信のため、市民の皆さんや事業者の皆さんもぜひご活用ください。

ロゴマークの使用についてはこちら